

# 環境通信

第8号（3月号）

令和2年3月発行（年4回発行）・発行元：大分市環境対策課・地球温暖化対策おおいた市民会議

## 大分市初雪 観測史上最も遅い観測に！

大分市地方気象台は、2月17日午前3時40分ごろ、**初雪**を観測したと発表しました。

平年より74日、昨年より22日遅い観測となりました。また、この日は福岡市でも初雪が観測され、いずれも統計開始以来最も遅い初雪となったことで大きなニュースになりました。

昨年の冬（2018年12月～2019年2月）は、大分市と日田市で冬の平均気温が統計開始以降最高気温を記録し暖かい冬となったが、今年の冬も**暖冬の傾向**がみられています。暖冬の影響で、冬野菜の生育が進み、大分市の市場に入荷する量が多くなっています。その一方で鍋物などを食べる機会が減り、野菜の需要が少なくなったことで、野菜の卸売価格が安くなっています。特に価格の低下が目立ったものは、ダイコン、キャベツ、ハクサイで、ブロッコリーなどは氷を入れて冷蔵した状態で出荷してくるものもあるそうです。暖冬による農作物への影響は、病害虫の発生や一時的な冷え込みによる凍霜害の発生なども心配されます。

また、暖冬の影響で雪が降らず、多くのスキー場で雪不足の状態が続いていることも報道されました。休業を余儀なくされ、倒産するスキー場も出てきているそうです。いつもの冬の風景や過ごし方が、暖冬の影響で少しずつ変化してきていることを感じます。



ところで、「暖冬」とは具体的にどういった状態のことでしょうか。

天候に関する実況や予報について表現する時に、気温を「低い」「平年並」「高い」の3階級で示したりしますが、この3つに分ける区分値は、30年間の観測値を小さい順に並べて、小さい方から10番目まで（全体の33%）が「低い」、11～20番目（同33%）が「平年並」、それ以上を「高い」となるように決めています。現在の区分値は1981年から2010年までの30年間の資料で作成した値で、区分値は10年毎に更新しています。「暖冬」は、これらの階級を用いた表現で、冬（12～2月）の平均気温が「高い」場合を指しています。ちなみに「暖冬」反対は、「寒冬」です。

こういった「暖冬」や、「冷夏（夏の平均気温が低い）」などの予報は、気象庁のホームページの「季節予報」を確認すると見ることができます。この季節予報によると、九州北部地方の4月の天候の傾向は、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並みまたは高い確率が40%ということです。（令和2年2月25日福岡管区気象台発表分）

また4月は入学シーズンですが、今年の**桜の開花**は全国的に平年よりも早く、記録的な早さで開花する地域が多いことが予想されています。2月27日に日本気象協会が発表した桜の開花予想では、福岡が最も早く3月16日、大分市では3月21日が開花予想日とされています。

## コップ COP25



2019年12月2日～15日にかけて、スペインのマドリードにて「**国連機構変動枠組み条約第25回締約国会議（COP25）**」が開催されました。日本からは小泉進次郎環境大臣らが出席し、2020年から始まるパリ協定の本格実施について、各国の代表と話し合いが行われました。

このCOPとは、国際会議のことで、締約国会議（Conference of the parties）の略です。この会議では環境問題に限らず、多くの国際条約の中でその加盟国が物事を決定するための最高決定機関として設置されています。1995年から毎年開かれており2019年の会議で25回目となります。

スウェーデンの16歳の少女、グレタ・トゥンベリさんがCOP25で演説したことや、本会議開催期間中に日本が気候変動NGOネットワーク組織である「気候行動アクションネットワーク（CAN）※」から「化石賞」を授与されるなど、この会議は日本でも大きくニュースで取り上げられました。

様々な形で報道されたCOP25ですが、この会議で大きな争点となったのは、「パリ協定第6条」の「市場メカニズム」についてです。

この**パリ協定における市場メカニズム**とは、他国での温室効果ガスの削減の貢献分を自国の削減分としてカウントする仕組みのことです。

例えば、温暖化対策の一つとして「二国間クレジット制度（JCM）」などがあります。これはA国が、温室効果ガス削減のための技術や資金をB国に提供して行われた削減プロジェクトの成果を、クレジットとしてA国が自国の削減分としてカウントできるというものです。この時注意しなければならないのは、それぞれの国の温室効果ガス排出量の算定方法についてです。A国が自国の実際の温室効果ガス排出量から、クレジット分を差し引き、反対にB国は自国の実際の排出量からクレジット分を加算することで、温室効果ガス削減量の二重計上（ダブルカウント）を防ぐ仕組みや取り決めが必要となります。

こういった「二国間クレジット制度」は、排出権取引制度のことで、京都議定書で導入された京都メカニズムの1つです。日本はすでにこの制度を実施しており、モンゴルやエチオピアなどと二国間協定を結んでいます。

こうした仕組みが、パリ協定でどのように引き継がれるのかといったことが1つの争点となっていました。各国の利害がからむ分野のため、今回のCOP25でも合意に至ることはできませんでした。

そのほかにも気候変動の悪影響に伴う損失と損害を指す「ロス&ダメージ」に関する議論や、各国の温室効果ガス削減目標の見直しなど、会期を延長し様々な議論がされましたが、残された課題は次回、2020年11月にイギリスで開催されるCOP26に持ち越されました。

地球温暖化対策を考えるうえでとても重要な会議として開催されたCOP25やパリ協定。これからも世界各国の動向や社会情勢などに注目していきたいと思います。

パリ協定については、「環境通信第6号」の「2100年未来の天気予報」の記事の中でも取り上げていますので、是非チェックしてみてください！

※「気候行動アクションネットワーク」は、会議の期間中、各国の交渉に臨む姿勢を毎日評価し、地球温暖化防止交渉にマイナスな発言をした国などを「本日の化石賞」に選定し公表しているNGOネットワークです。





# 第7期 地球温暖化対策おおいた市民会議委員を紹介します！

氏名 河原 伸明  
団体名等 大分県生活協同組合連合会  
団体肩書き 専務理事



今年7月から大分県生協連合会の専務理事に就任しました。今年度（第7期）から本市民会議に委員として初めて参加します。前職は自治労大分生協の専務理事として10年間勤務し、県生協連合会理事も務めてきました。各生協では地球温暖化防止に向け、県内各市の地球温暖化対策市民会議に積極的に参加するとともに、家庭や事業所で節電等、様々な取り組みを実施しています。

氏名 前田 義憲  
団体名等 (株)トキハ  
団体肩書き 総務部総務課キャリアマスター



本市民会議には、第2期から委員として参加しています。

当社は2010年に、国際的な環境マネジメントシステムであるISO14001を認証取得しましたが、その当時より事務局を担当しています。とりわけ廃棄物に関する一切を担当しており、2017年2月に廃棄物排出システムを大幅に変更しました。本店では延べ2,000人が廃棄物の排出（ごみ捨て）に係っていますが、当社のごみ捨てルールを徹底させることに腐心している毎日です。社員、パート、派遣社員、業務委託社員、テナント社員、アルバイトなど、従業員と言っても様々な雇用形態の方がいますし、常に人が入れ替わっていますので日々是教育と思いつながりながら業務に携わっています。

氏名 内田 利美  
団体名等 九州電力(株)大分支社  
団体肩書き 企画・総務部  
総務・地域共生グループ課長



今年度（第7期）から本市民会議に委員として初めて参加します。

九州電力株式会社及び一般財団法人九電みらい財団は、「人と自然と、つくるみらい」をスローガンとして、環境活動を強化します。

九州全域において、地域の皆さまと一体となった環境保全活動に取り組むとともに、環境意識を高めるための教育・啓発活動を積極的に展開します。

氏名 豊島 雅史  
団体名等 大分ガス(株)  
団体肩書き 総務課長



本市民会議には第5期から委員として参加しています。

大分瓦斯株式会社に1997年入社し、今年で22年目になります。現在では、総務部総務課にて勤務しており、当社の環境の担当をしています。大分ガスは、「環境にやさしい天然ガスの普及拡大」はもちろんのこと、家庭用燃料電池エネファームをはじめとした「省エネルギー・低環境負荷の機器、システムの普及」を通して、お客さまのエネルギー利用におけるCO2排出量の低減に貢献できるよう努めています。

さらに、事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組み、環境コミュニケーション活動を推進してまいります。

氏名 日野 敬裕  
団体名等 大分コンビナート競争力強化検討部会  
(JXTG エネルギー株式会社大分製油所)  
団体肩書き 企画・総務部



今年度（第7期）から本市民会議に委員として初めて参加します。

本年4月より大分コンビナート企業協議会の競争力強化検討部会のメンバーとなり活動しております。主に、各事業所でのエネルギーの有効利用や相互融通・連携等を検討しています。

氏名 木村 誠  
団体名等 大分市工業連合会  
団体肩書き 事務局次長



今年度（第7期）から本市民会議に初めて参加します。

大分市工業連合会は大分市に臨海工業地帯ができる際、中小企業が協業するために設立しました。

大分市工業連合会では、会員企業同士の工場・事業の見学をはじめ、大分の工業に携わる企業同士の横のつながりを生む活動のほか、「大分市工業展」や「ものづくり展」などのイベントを通じて特に次世代を担う若い方にもものづくりの楽しさや大切さを知ってもらう活動をしています。

氏名 佐藤 来  
団体名等 (公社)大分県トラック協会  
団体肩書き 業務課長



本市民会議には第6期から委員として参加しています。

(公社)大分県トラック協会(事業者団体)の主な3つの取組には、第一に「トラックの森」と銘打った植樹祭の開催、第二にエコドライブの推進、第三に低公害車の導入の普及促進があります。自然と向き合う心の醸成、運転技術による排ガス量の低減、支援機器導入による燃費の向上に取り組み、環境保全に努めています。また、その他の取組として、貨物自動車運送事業に係る低公害車の普及促進及びエコドライブの推進並びにグリーン経営認定制度の普及促進など環境・エネルギー対策に関する事業を行っています。

委員のみなさん、ありがとうございました。次回は令和2年6月の発行です。お楽しみに！